

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

10月号

Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420

BLS(一次救命処置)研修を継続しています

当センターでは2016年以降、全看護職員を対象に、毎年BLS研修を行っています。

救急看護メンバーが企画・運営を行い、各部署のコアメンバーが中心となって、部署別に1時間程度で開催しています。評価基準を設けるためにスキルチェック表を作成し、到達目標に達していない場合はその場で修正、または各部署で時間を設け、習得までのサポートを行っています。

2018年は看護職に加え、コメディカル対象のBLS研修も開催しました。院内では、蘇生の場面に遭遇する可能性も高く、BLS研修は院内全職員で取り組むことが重要と考えております。

毎年、前年度の意見を基に、全看護職員が受講できるよう研修方法や開催時期を変更するなどの工夫



BLS研修の様子

を行っています。研修後の受講生からは、「繰り返すことが大切だと思う」、「忘れていたことを再確認できた」、「実際に動けそう」との意見や、「蘇生の場面に遭遇したことがなく、慌てず冷静になれるか不安」などの意見も聞かれました。救命処置を戸惑うことなく積極的に実施できるよう、いざという時のためにトレーニングは重要です。BLSは院内研修を受講することがゴールではなく、トレーニングの継続や急変時にチームとしてどう動くかという应用能力が求められるため、引き続きコアメンバーの育成にも力を入れていきたいと思っています。

また、今後は地域医療支援病院として、院外からのBLS研修も受け入れていけるよう取り組んでまいりたいと考えています。

(文責：救急看護認定看護師 川口 文香)



BLS研修の様子

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

BLS研修	P 1
JSPEN2021で発表を行いました	P 2
医療最前線	P 3
外来担当医表 (10月)	P 4

～JSPEN2021～ INST (Nutrition Support Team:栄養サポートチーム)で学会発表を行いました

去る7月21日～22日（オンデマンド配信期間：7月21日～8月31日）、第36回日本臨床栄養代謝学会（JSPEN2021）が行われました。今回はハイブリッド形式（現地：神戸ポートピアホテル+WEB）で開催され、テーマは「温故知新：栄養療法のこれまで・今・これから」でした。

WEBで参加させていただき、当センターのNSTで演題発表を行いました。発表内容は症例検討で、演題名は「入院時からのNST介入により経口摂取・口腔内環境・ADLの維持ができた癌患者の一例」です。入院時からのNST早期介入により、患者のQOL（Quality Of Life：生活の質）の維持に寄与できたと考えられる症例をまとめたものです。多職種で連携し、食事摂取量のアップ、口腔ケアの強化、リハビリの継続等を通して、化学療法の再開、自宅への外出泊に繋げることができました。

当センターでは、SGA (Subjective Global Assessment：主観的包括的栄養評価)、簡易的サルコペニ

ア判定、血液検査値、食事摂取状況、褥瘡の有無等の項目をもとに、入院時栄養スクリーニングを行い、NST介入対象患者をピックアップしています。毎週水曜日に、NSTカンファレンス・回診を行い、モニタリング、アセスメントを繰り返しながら、疾病治療過程における栄養状態及びADLの維持・改善、QOLの維持・向上に努めており、栄養管理と併せて積極的なリハビリテーションの介入をすすめています。具体的には、現在口腔ケアの強化、入院期間中の筋力維持に注力しています。高齢患者が多い中で、摂食嚥下機能の低下がみられる場合も多く、口腔ケアを徹底することで誤嚥性肺炎発症予防、増悪予防に努めています。



今回のような学術集会への参加や発表は、NST活動の振り返りや今後の課題抽出、他院での取り組みや栄養療法の動向について学ぶ良い機会であり、前述の口腔ケア、積極的なリハビリテーション介入をはじめ、日々の取り組みに活かしていくことが大切だと感じています。

今回の症例発表に際し、ご理解・ご協力をいただきました患者様、ご家族の皆様、またご指導・ご支援をいただきました皆様に深く感謝いたします。JSPEN2021に参加させていただき、ありがとうございました。

（文責：管理栄養士 高木 美紀）

医療最前線 (135)**単関節炎の診療**

整形外科

工藤 智志 先生

原因不明の単関節炎ではNSAIDs投与のみで経過を見るうちに鑑別がつくこともありますが、炎症反応が顕著な例では早期の対応を迫られます。症状の強い単関節炎は感染として対応し、並行してリウマチ関連性疾患の鑑別を進める方針としています。リウマチ関連疾患では免疫抑制剤を使用することから、複数回の関節液、血液培養を行うとともに滑膜の培養・病理組織学的検索を行い、感染を念入りに否定するよう心がけています。

症例1 81歳 女性 右膝関節炎

右膝OAの診断で関節内注入を受けていたが急に疼痛、水腫が増強。関節液結晶、細菌培養は陰性。各種リウマチ因子陰性。症状悪化から約1週間後に精査加療目的で当科を紹介。入院翌日に関節鏡検査施行。関節内には絨毛状の滑膜増生を認め、滑膜切除術を行うとともに滑膜を培養、病理検査へ提出。以後、感染性関節炎として治療を行いながら、非感染性関節炎の鑑別を進めた。発症から4~8週間で両手関節、両肩、両膝、右足関節に関節炎が出現。朝のこわばりを含めRA分類基準を4/7満たし、感染は否定的で他のリウマチ関連疾患を示唆する所見もなくRAと診断。

症例2 68歳、女性 右下腿の腫脹疼痛

右下腿の急な腫脹疼痛のため深部静脈血栓症を疑われ当院循環器内科へ紹介。受診当日の造影CTにてヒラメ静脈に血栓が認められたがヒラメ筋と半膜様筋に膿瘍を示唆する所見もみられ当科へ。右膝後面ではハムストリング筋腱と下腿三頭筋内側に発赤、腫脹、熱感あり。膿瘍と思われる部位の郭清を行い、ドレナージ、抗生剤投与開始。炎症反応は改善せず、右膝関節炎所見が出現。ここまで細菌検査は陰性。RFと抗CCP抗体陰性、抗ガラクトース欠損IgG抗体弱陽性。関節鏡検査では関節全体に滑膜増殖を認め、滑膜切除術を行った。以後、感染として治療を行いつつ鑑別を進めた。入院後4週間後に対側膝関節炎を発症、画像ではMRIにて両肩と両股関節周囲の滑液包炎、右足関節周囲炎、CT、MRIにて両仙腸関節炎を示唆する所見を認めた。RAの可能性は否定できないが、仙腸関節炎が明らかで、脊椎関節炎の末梢関節炎治療はRAとほぼ同様であることも考慮し脊椎関節炎と診断。

尚、当院へ赴任後15年間で2例の骨関節結核を経験しました。結核性関節炎は単関節炎が多く、RF、抗CCP抗体陽性となりうる(約30%)ことから滑膜生検なしで単関節RAと診断すべきではないとされていることを申し添えます。

原稿を募集致します

登録医の先生の投稿を歓迎いたします。400~800字程度を基準とします。

送付先 〒861-0593 山鹿市山鹿511番地 山鹿市民医療センター 地域医療連携室

ホームページをご利用下さい。病院の最新情報をご覧になれます。

<http://yamaga-medical-center.jp>

外来担当医表

10月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※ 御任 玲美	※ 猪山 慎治	※ 後藤 英介	—	※ 後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	宮本 英明
消化器内科	上野 茂紀 (本原 利彦)	富口 純	本原 利彦	富口 純 (上野 茂紀)	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	※1 中嶋 直也 担当医 (予約のみ)	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	高木 茂 横田 秀峰 荒木崇土/中原達秀	工藤 智志 荒木 崇土 中原 達秀	手術 (担当医)	高木 茂 工藤 智志 横田 秀峰	手術 (担当医)
外科	別府 透 赤星 慎一 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 赤星 慎一 (織田 枝里)	手術 (担当医)	別府 透 赤星 慎一 山村 謙介
乳腺外科	—	※ 末田 愛子	—	—	—
泌尿器科	—	※ 非常勤医師	—	※ 非常勤医師	—
小児科	※ 石井 真美 9:00~16:30まで	※ 徳永 郁香 (小児一般・ アレルギー外来)	※ 石井 真美 9:00~16:30まで 予防接種(午後)	※ 石井 真美 9:00~16:30まで	※ 徳永 郁香 (小児一般・ アレルギー外来)
セン タク ー 器	耳鼻咽喉科	—	※ 非常勤医師	※ 非常勤医師	—
	眼科	木山 優	木山 優	木山 優	木山 優
産婦人科	福島 泰斗	福島 泰斗	福島 泰斗	福島 泰斗	福島 泰斗
※片渕美和子(午後) 10/5(火)、12(火)、14(木)、19(火)、26(火)、28(木)					
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外科医(午前) 整形外科医(午後)	整形外科医	大庭 圭介	消化器科医	外科医(午前) 担当医(午後)
健診	豊永 政和 富口 純	豊永 政和 上野 茂紀	豊永 政和 富口 純	豊永 政和 上野 茂紀	豊永 政和 上野 茂紀

◎診療時間は8:30開始で11:00(小児科は16:00)受付終了となります。
 当日の受診に関する相談を除く電話は、14時から17時が受付となります。
 ※ 非常勤医師です。 ※1 第2、第4水曜日のみ診療となります。

特殊・専門外来

10月

名称	担当医等	実施日	診察場所
緩和ケア外来(予約制)	織田 枝里	毎週 月曜・水曜 (11:00~12:00)	Bブロック
外来化学療法(予約制)	担当医	毎週 火曜・水曜・金曜	各診療科
禁煙外来(予約制)	坂田 和子	毎週 月曜(午後)	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜(午後)	
小児科予防接種	※ 石井 真美	毎週 水曜(受付時間13:30~15:30)	
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜(午後)	Bブロック
女性外来(婦人科、思春期、更年期)	※ 片渕美和子	10/5(火)、12(火)、14(木)、19(火)、26(火)、28(木)	
PEG外来	担当医	毎週 第2・4水曜(午後)	
両親学級(予約制:産婦人科)	助産師	第2・第4木曜日(13:30~15:30) ※産婦人科へお尋ねください。	5階病棟
セカンドオピニオン外来(予約)	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。
 ◎急患の場合は、この限りではありません。
 ご注意:学会等の都合で変更になる場合があります。
 ◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
 TEL(代表)0968-44-2185 FAX 0968-44-2420
<http://yamaga-medical-center.jp>